

教育長定例記者会見 会見録

日時：令和3年7月27日（火） 14時45分～

場所：教育委員室

発表項目

- ・ 県内小中学校において、みえスタディ・チェックをCBT化して実施します

質疑事項

- ・ 県立高校の校則について

発表項目

○県内小中学校において、みえスタディ・チェックをCBT化して実施します

本日発表1件です。

県内の小中学校におきまして、みえスタディ・チェックをCBT化して実施をいたします。本年度、小中学生に1人1台の学習端末が配備されました。その環境を生かしまして、みえスタディ・チェックをCBT化して実施をいたします。このことにより、児童生徒は、このスタディ・チェック終了後、すぐに正解・不正解を確認するとともに、子どもたちの正解と不正解に応じて、その学習端末に追加の問題が提供されますので、そのことに取り組むことで、学習意欲の向上と学習内容の理解、定着を図るというものです。教員にとっては、児童生徒一人ひとり、あるいはクラス、学校のそれぞれの強み・弱み、経年変化、どの問題でどれぐらいの児童生徒がつまづいているかということ、このみえスタディ・チェック終了後すぐに把握できます。そのために早期からの一人ひとりの状況に応じたきめ細かな指導や授業改善に生かしていくというものです。

まず、みえスタディ・チェックの概要ですけれども、三重県では学習内容の定着状況を把握し、各学校での個に応じた指導、授業改善を進めるために、平成26年度から、年2回実施しております。第1回は、毎年4月に小学校、第4学年（国語、算数）、第5学年（国語、算数、理科）、それから中学校は、第1学年（国語、数学、理科）、第2学年も同じ教科で実施をしています。第2回は、1月に小学校は第5学年（国語、算数、理科）、中学校は、第2学年（国語、数学、理科）で実施をしています。この理科は3年に1回の実施としているところです。

CBTの概要ですけれども、みえスタディ・チェックの問題を児童生徒の学習端末に提供いたします。それで、児童生徒がそれぞれ自分の学習端末上で解答をします。記述式問題もあるんですけれども、これは各教科1問なんですけれども、記述式問題については別途紙媒体で配布する解答用紙に記入をいたします。さっき申し上げましたけれども、そのスタデ

イ・チェック終了後、自分の端末ですぐに設問ごとの正解・不正解を確認することができます。それで、設問ごとの、その問題の解説と正解の場合のアドバイス、不正解の場合のアドバイスを別々に用意して提供いたします。あわせて、正解の場合は、さらにチャレンジする難しい問題を、不正解の場合は、少し学習内容を遡った問題を端末に提供いたします。三重県のずっとの課題であります、「割合」「図形」「読む力・伝える力」に関する問題については、さらに1問追加問題を提供いたします。教員にとりましては、みえスタディ・チェック終了後すぐに自動採点・集計が行われますので、先ほど申しあげましたような、児童生徒一人ひとり、学級、学校の強み・弱み、経年変化、どの問題でどれくらいの児童生徒がつまづいているかを、独自に把握できます。本年度の第2回みえスタディ・チェック、令和4年1月に行いますけれども、ここからC B T化をして実施をいたします。それに当たりまして、11月にプロトタイプを小学校第5学年の算数、それから、中学校第2学年の数学で実施をいたします。

今申しあげましたみえスタディ・チェックのC B T化とは別に、授業や朝の学習、あるいは補充学習で活用できる「割合」「図形」「読む力・伝える力」の問題を児童生徒の学習端末に提供できるようにいたします。これにつきましては、9月から、I C Tを活用した効果的な指導方法を研究するモデル校、小学校49校を今年度指定してのりですけれども、そこで先行実施して、10月からは県内すべての小学校に提供をいたします。問題を解答して正解の場合は、同様にさらに難しい問題が2問、不正解の場合は、遡った問題が2問提供をされます。

もう1点は、単元別に整理したワークシートの提供ということで、三重県教育委員会ではこれまで、紙媒体ですけれども、小学校第4学年から中学校第3学年までの国語、算数・数学、理科のワークシート、ひとつのワークシートに4問程度問題があるわけですけれども、これが現在2,400シートありますけれども、これを児童生徒の学習端末に提供できるようにいたします。これにつきましても先ほどと同様に、9月からはモデル校に、算数・数学のマークシートを提供して、10月からは県内すべての小中学校に提供いたします。国語、理科につきましては、11月以降順次、すべての小中学校に提供いたします。

こうした、国においても全国学力・学習状況調査のC B T化については、文科省で検討されているところです。現時点では、各都道府県それぞれ独自の学力調査をC B Tで実施している都道府県はない状況です。

あと添付資料の方を少し見ていただきますと、3ページの下画面がスタートページの画面のイメージです。それぞれ一人ひとりの児童生徒が使う学習端末にまずこの画面が出てきて、左の方の上の「みえスタディ・チェック」というのを押しますと、4ページの上画面に行きまして、「国語、算数、理科」ということで、ここの「算数」を押すと、その下の右端に4と書いてあるシートですけれども、そこに行きまして、まづクラスの番号と出席番号を一人ひとりが入力をして、「はじめる」というボタンを押して、次の5番のイメージですけれども、これが小学校算数の第5学年の画面です。残り10問ということは、

大体 11 問程度出しておりますので、その一番最初の問題で、1 の (1) ということで、「 $4.2 \div 6$ の式で求められる問題を下のアからエまでの中からすべて選びましょう」ということで、答えをアイウエで選んで、「次へ」っていうのを押して、ずっとこういうふうの問題を解答していったら、シートの 6 番が一番最後の例示の問題ですけれども、この問題をやって次へ行きますと、シートの 7 番のところまでこれで算数の問題は終わりですということで、全員が終わったときに「みえスタディ・チェックをおわる」ということで、8 ページの最初の児童生徒用ページに戻るわけですけれども、ここで、「みえスタディ・チェック結果表」というボタンを押しますと、9 番のシートのところに行きます。それで、左の方に、問題の 1 番の (1) という順番に書いてありまして、その隣に「問題の概要」というのがあって、白抜きのところの「正答」というのをクリックしますと、この児童は「アとエ」ということで、その下に解説とかいうふうなことが出てきます。

実際の例示が 10 番のシートのところを見ていただきますと、1 番の (1) で問題の概要として、 $4.2 \div 6$ の式で求められる問題をすべて選択するというので、この子は正誤のところ「×」になってますので、ちょっと間違えた例示ですけれども、間違えた場合のアドバイスは、割り算はいくつ分であるかを求めるときと、1 つ分の大きさを求めるときに使うってことがあります。その隣にある、点線で囲ってある部分が、正解・不正解に応じて関連付けた追加問題です。この子の場合、不正解ですので、割合①で 1 つ遡って、この「×」の例示になってますけれども、次に割合②でもう 1 個遡ってこれは最後は正解したっていう例示になってるんですけれども、次のシートの 11 番のシートを見ていただきますと、これが関連付けた追加問題の 1 つ目の割合の問題の 1 つ目の画面イメージです。これは答えが「 $24 \div 6$ の式で求められる問題を下のアからエまでの中からすべて選びましょう」ということで、先ほどの問題は小数点だったんですけれども、これは整数の問題になってます。ただ、すべて選ぶということで答えが 1 つじゃないし 2 つかも 3 つかもわからないということで、その下の 12 のシートが、イとエが正解なんですけれども、この子は不正解だったということです。そのときに、13 のシートですけれども、もうひとつの、次の追加問題ということで割合②の画面イメージで、「 $12 \div 3$ の式で求められる問題を、下のアからウまでの中から 1 つ選びましょう」ということで、どれか 1 つを選ぶということで、この場合下の 14 でイを選んでいけば正解ということで、できなかった問題の内容に応じて、少し遡って問題を提供して、それもできなかった場合はもうちょっと遡って提供して、できなかった子は、どこまで遡ったらできるようになるかということと、できた子は、もう少しチャレンジする問題を提供するということまで合わせて、この CBT 化の中で取り組みたいというもので、これを、今年度の第 2 回の、令和 4 年 1 月のみえスタディ・チェックから、実施しようというものでございます。

私の方から以上です。よろしく願いいたします。

発表項目に関する質疑

○県内小中学校において、みえスタディ・チェックをC B T化して実施します

(質) スタディ・チェックって大体何人ぐらい参加するんですかね。

(答) 県内の公立小中学校に案内をしまして、市町教育委員会を通じて、学校が参加、不参加、参加するってことを意思表示してもらいますけれども。結果としては…。

(答 学力向上推進 PT 担当課長) 第1回目は全校ということで、1万5千人。

(答) ほぼすべてのところで。

(質) 小中…。

(答 学力向上推進 PT 担当課長) 1学年が1万5千人くらいなんで。4年生も5年生も、中1、中2もそれぞれが。多少誤差ありますけれども。

(質) 1万5千人くらいが参加するようなイメージ。

(答 学力向上推進 PT 担当課長) それぞれが。

(質) 毎回。

(答 学力向上推進 PT 担当課長) はい。

(質) 費用っていくらくらいかかるんですか。

(答) このシステムを構築する費用として、1,148万4千円、それから運用保守ということで今年度は94万9千円余りということです。来年度は運用保守費用ということで、190万円弱、1年ですけれども、となっております。

(質) 独自の学力調査でC B Tで実施している都道府県はないとのことですが、これはかなり先進的な取組になる感じですか。

(答) そうですね、国の方はもう少しボリュームも多いですし、記述問題が多いということもあるんですけれども、まだ検討中なんですけれども、もう少し先になると聞いています。全国の都道府県では、文部科学省のホームページにもいろいろ紹介されているようなんですけれども、我々が把握しているのは、京都府がこの9月に実証の研究をして、埼玉県は来年度にモデル校で施行実施するというふうに把握をしております。それ以外の都道府県単位ではまだ行われていないということです。

(質) ちょっと私も不勉強でわからないんですけど、経年的課題の「割合」「図形」「読む力・伝える力」、これは経年的課題というのはどういう。

(答) 三重県の小学生、中学生もそうなんですけれども、ずっと我々みえスタディ・チェックをやったり、全国で出されてます、全国学力・学習状況調査において、毎年この「割合」の問題について正答率が低いという状況がございます。それから、「図形」も同様の単元となっております、あと国語でいうと、「読む力・伝える力」に課題があるということで、1年だけじゃなくて、ずっと継続して課題が生じているという単元ということで、我々はとらえております。

(質) 2の(1)の最後、理科は3年に1回、これは全部の学年の理科は3年に1回なんですか。

- (答) そうです。4年も5年も。
- (答 学力向上推進 PT 担当課長) すみません。2回目のみです。1回目は理科はあるんですけど、2回目は小学校5年生、中学校2年生で実施するものについては3年に1回になっています。
- (質) 確か菰野町さんが、まだ端末の配備が済んでなかったかと思うんですが、もう配備は終わっていて、全小中学校がそちらを受けれる環境が整っている状態になっているんですか。
- (答 学力向上推進 PT 担当課長) 現在把握している中では整っているっていう状況です。
- (質) あと、当初予算にこちらあげられてたかと思うんですけど、その段階から今まで変わってますか。特に変わってないですか。
- (答) 当初予算に計上した時の想定の中で、事業内容と実施時期も今回実施をさせていただきます。
- (質) すみません。プロトタイプってなんですか。
- (答) 試作とか試行とかっていう形でちょっと言われてる、最近言われてるところなんですけれども、令和4年1月にみえスタディ・チェックで実施するんですけれども、その前に試行的に、11月に行わせていただくということです。
- (質) これはでも要するに、みえスタディ・チェックという形ではないということですか。
- (答) そうですね。問題もボリュームも少し絞って、教科もこの算数・数学だけで行いますので、全く同じ教科と量でやるということではございません。
- (質) 今回は動作確認というか、狙いとしてはそういうことですか。
- (答) そういうことです。はい。
- (質) 実物はまだ。
- (答 学力向上推進 PT 担当課長) 申し訳ありません。まだです。見ていただければよかったですんですけど。
- (答) ここに映したかったんですけども、まだ策定中です。
- (質) 元々は記述式の問題の比率が小さかったんですか。C B T化することによりその比率を減らすとかそういうことではない。
- (答) 元から記述は少ないです。
- (答 学力向上推進 PT 担当課長) はい、元々は少ないんですけども、1月に実施するものについては、1問に限ってということにさせていただきますけども、これ以降についてはまた元に戻すという形にはしていきたいなというふうには思っています。
- (質) 紙媒体って要はプリントみたいな解答用紙ですよ。
- (答) そうです。それをなかなかパソコンに入力というのは児童生徒には難しいです。
- (質) 書きづらいですかね、はい。
- (質) これパソコンなんですか、タブレット。
- (答 学力向上推進 PT 担当課長) タブレットです。

その他の項目に関する質疑

○県立高校の校則について

(質) 先日、県立学校の校則の関係で、地毛証明のこと等が追加調査で出されたと思うんですけど、いわゆる校則の関係での追加の調査というのは、あれでひと段落という理解でよろしいでしょうか。

(答) はい。ツブブロックの部分で、我々把握して、そのあと今回見直した部分、項目について、全ての県立学校について、改めて見直した内容と実際の内容について把握して、それでこの前提供させていただいたのが調査の全体です。

以上、15時06分終了